

1 国家財政および地方財政

- (1) **国家財政** 持ち直しの動きが期待されるが、感染症が与える影響に注意
  - ▶ 社会経済活動のレベルを引き上げていく中で、各種政策の効果等により持ち直しの動きに期待
  - ▶ 感染症が与える影響に十分注意する必要がある
- (2) **国予算** 感染症対策などに対応したうえで、歳出改革の取組を強化
  - ・ 施策の優先順位を洗い直し、無駄を徹底的に排除しつつ、予算の中身を大胆に重点化
- (3) **地方財政** 財源確保が不透明な中、社会保障経費等に多額の財源が必要
  - ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により安定した財源確保が不透明な中、増嵩する社会保障経費や公共施設の老朽化対策経費に引き続き多額の財源を要することから、安定した財政運営が難しい状況

2 茨木市の財政

「今」と「将来」に対応した市民サービスの向上を図る政策事業を着実に推進していくには、多額の財源が必要となり、収支不足となる見込み

(1) **令和3年度の見通し** 市税の大幅な減収や社会福祉経費等の経常経費の増大により、収支不足となる見込み

[歳入] 新型コロナウイルス感染症の影響により、個人所得・法人収益の減に伴い市民税の減収等を見込むことから、市税収入は大幅に減収となることを見込む

[歳出] 景気の停滞や高齢化の進展等に伴い社会福祉経費が引き続き増加する厳しい財政環境となることを見込むことに加えて、「今」と「将来」に対応した市民サービスの向上を図る政策事業を着実に推進していくには、多額の財源が必要となり、収支不足を見込む

(2) **今後10年間の見通し** 何も手立てを講じない場合は、令和3年度から収支の均衡が崩れ出す厳しい状況

[歳入] 増加傾向にあった市税収入が新型コロナウイルス感染症の影響により減収・停滞局面に入ることを見込む一方で、財源不足を調整する地方交付税や臨時財政対策債による減収分の補填を見込むことから、税等一般財源の総額については、一定額が確保されるものと見込む

[歳出] 今後も扶助費をはじめとする社会福祉経費が増加していくことに加え、市民会館跡地活用等の主要プロジェクト事業等の推進に係る経費を見込む

3 予算編成にあたっての基本的な考え方

令和3年度は、「アフターコロナも見据えた“次なる茨木”」に向け、

『今』への的確な対応と、『将来』を見据えた施策展開

- ▶ 安全・安心が実感できるまちづくり
- ▶ 豊かさ・幸せが実感できるまちづくり
- ▶ まちづくりを支える『財政の健全性』の確保

の実現が図れる予算編成とする。

■ 実現に向けた取組み

(1) 「今」と「将来」に対応した施策の実現と「健全財政」の確保

①『今』必要なサービスの充実

「安全・安心」の市民生活を確保

ウィズコロナの対策や災害に強いまちづくりに係る取組を推進

「豊かさ・幸せ」を実感できるまちづくり

「教育のまち茨木」に係る施策や子育て支援策の推進、福祉施策の充実等を図る

②『将来』を見据えたまちづくり

主要プロジェクト事業等は、事業効果の発揮やさらなる魅力向上に取り組む

③『財政の健全性』の確保

行財政改革指針に沿ったさらなる取組みの実践等により、社会経済状況の急激な変化等にも柔軟に対応できる健全財政の確保に努める

(2) まちの持続的発展を果たすための取組の実施

①柔軟な財政構造の保持(メリハリあるビルド&スクラップの実践)

ビルド(新規・拡充のソフト事業)に要する財源は、スクラップ(既存事業の見直し)により創出すること

《ビルド》市民サービスの向上を図る事業の着実な実施

今後の時代の変化を具体的に想像したうえで、全庁的な取組みにより、デジタル化の推進等の「新しい生活様式への対応」や「コロナに強い社会環境の整備」を図る事業を進める

- 1) 新型コロナウイルス感染症対策
- 2) “次なる茨木”の実現に向けた事業
- 3) 実施計画における検討事業以外の対応事業

《スクラップ》事業の見直し等による健全な財政運営の推進

②将来への負担の抑制(ハード事業の適切な選択による市債発行の抑制)

ハード事業の適切な選択により市債発行を抑え、残高を減らすことで将来の公債費負担を軽減し、今後の財政需要に対応できる財政構造を堅持する

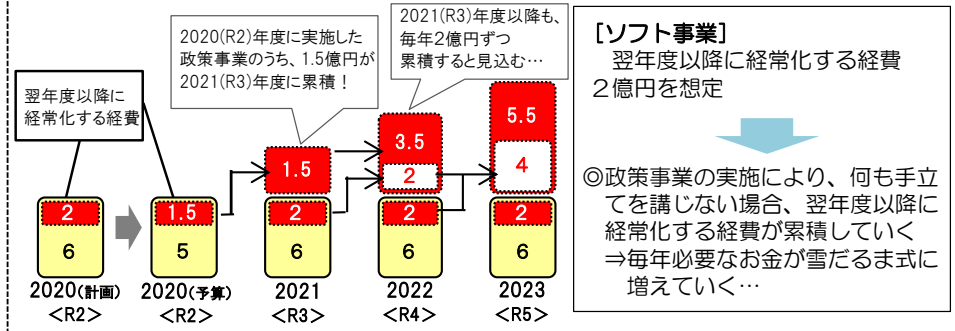
(3) 老朽化する公共施設等の長寿命化の推進

「茨木市公共施設保全方針」に基づき、適切な保全と長寿命化を進めるため、財政計画で財源を確保し、緊急性や必要性の高い改修等を実施する

## 4 財政収支の見通し

中長期財政見通し		2021年度 (R3)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)	2030年度 (R12)
A 経常事業	①歳入	882	884	888	891	893	893	892	894	895	890
	(1) 市税	462	467	472	470	473	477	473	476	479	475
	(2) 譲与税・交付金	74	69	69	69	69	69	69	69	69	69
	(3) 地方交付税	16	17	15	15	14	13	14	13	12	13
	(4) 市債 (臨時財政対策債)	21	21	19	19	18	16	17	16	15	16
	(5) その他	309	310	313	318	319	318	319	320	320	317
	②歳出	853	856	865	864	864	860	856	858	855	852
	(1) 人件費	176	177	180	180	182	180	180	181	181	182
	(2) 社会福祉経費 ※1	400	403	406	408	411	412	411	411	410	412
	(3) 公債費	52	52	53	48	45	42	40	39	36	30
(4) その他	225	224	226	228	226	226	225	227	228	228	
収支 (①-②)	29	28	23	27	29	33	36	36	40	38	
③システム最適化経費	5	0	△2	△2	△2	△1	△1	△2	0	△2	
A 収支 (①-②-③)	24	28	25	29	31	34	37	38	40	40	
※1 扶助費+繰入金(国保・後期・介護)+後期高齢者療養給付費負担金											
B 政策事業	④ハード事業	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	市債	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
	一般財源	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
	⑤ソフト事業	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8
	一般財源	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	⑥基金積立	2	2	4	4	4	4	4	4	4	4
	⑦主要プロジェクト事業	91	113	62	7	5	0	0	0	0	0
	市債	34	51	37	5	4	0	0	0	0	0
	一般財源	2	2	1	1	1	0	0	0	0	0
	事業費 (④-⑦)	121	143	94	39	37	32	32	32	32	32
市債	47	64	50	18	17	13	13	13	13	13	
B 一般財源	14	14	15	15	15	14	14	14	14	14	
C 公共施設等の老朽化対策費	⑧事業費	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
	市債	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7
	C 一般財源	11	11	11	11	11	11	11	11	11	11
D 政策事業の経常化分	D <sub>1</sub> ソフト事業の新規・拡充経費等	1.5	3.5	5.5	7.5	9.5	11.5	13.5	15.5	17.5	19.5
	D <sub>2</sub> 公債費	1	1	1	4	8	12	15	16	19	19
	D 政策事業の経常化分 合計	2.5	4.5	6.5	11.5	17.5	23.5	28.5	31.5	36.5	38.5
2020(R2)年度で実施したソフト事業のうち経常化した経費が積み重なる…											
E 総収支 A-B-C-D	▲3.5	▲1.5	▲7.5	▲8.5	▲12.5	▲14.5	▲16.5	▲18.5	▲21.5	▲23.5	

### 政策事業の実施により経常化する経費が累積

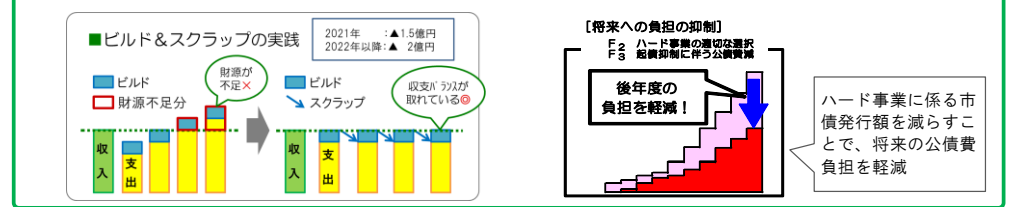


## 5 将来を見据えた取組み

中長期財政見通し		2021年度 (R3)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)	2030年度 (R12)
E	総収支 (A-B-C-D)	▲3.5	▲1.5	▲7.5	▲8.5	▲12.5	▲14.5	▲16.5	▲18.5	▲21.5	▲23.5
F	経常経費の見直し(累積額)	▲1.5	▲3.5	▲5.5	▲7.5	▲9.5	▲11.5	▲13.5	▲15.5	▲17.5	▲19.5
	ハード事業の適切な選択	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2	▲2
F	起債抑制に伴う公債費の減	0	0	0	0	▲1	▲1	▲1	▲1	▲2	▲2
	F 取組効果 合計	▲3.5	▲5.5	▲7.5	▲9.5	▲12.5	▲14.5	▲16.5	▲18.5	▲21.5	▲23.5

※削減・抑制額を▲で示す

### 持続的発展を支える財政の健全性の確保に向けた取組み



取組みの結果

中長期財政見通し	2021年度 (R3)	2022年度 (R4)	2023年度 (R5)	2024年度 (R6)	2025年度 (R7)	2026年度 (R8)	2027年度 (R9)	2028年度 (R10)	2029年度 (R11)	2030年度 (R12)
最終収支 (E-F)	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0

財政の健全性の確保に向けた取り組みの実践により収支不足を解消し、黒字を確保！！

## 6 予算編成に向けての財源フレーム

